

I. 概 要

1. 沿 革

2003年10月1日に、それまで我が国における宇宙及び航空の分野において独自に研究活動を行ってきた宇宙科学研究所、宇宙開発事業団、航空宇宙技術研究所の3機関の力を結集し、宇宙開発、宇宙科学研究及び航空科学技術を一段と効率よく効果的に推進する体制を構築するため、これらの機関を統合し、宇宙航空研究開発機構（JAXA）という単一の機関が独立行政法人として設立された。

新機関の在り方については、2001年9月より、宇宙開発委員会、宇宙3機関代表者、及び大学、産業界の有識者から構成される、「宇宙3機関統合準備会議」において議論され、統合後の新機関が宇宙開発、宇宙科学及び航空科学技術の研究開発を推進する我が国唯一の機関であることの重要性を踏まえた上での組織作りが求められた。その結果理事長の下にロケットの開発、打上げ、射場管理、衛星の追跡運用を一元的に担当する「宇宙基幹システム本部」、地球観測、通信・測位などの宇宙利用を主務とする「宇宙利用推進本部」、宇宙航空に関する先端・基盤技術の開発を担当する「総合技術研究本部」、宇宙科学の研究、大学院教育を担当する「宇宙科学研究本部」の4本部が設置された。

宇宙科学研究本部は上記のとおりJAXAの中で、宇宙科学発展及び大学院教育の中核を担う本部として位置づけられている。

JAXA宇宙科学研究本部の前身である文部科学省宇宙科学研究所の歴史は、1964年に設置された東京大学宇宙航空研究所に遡る。1964年4月に「宇宙理学・宇宙工学及び航空の学理及びその応用の総合研究」を行う目的で東京大学に宇宙航空研究所が設置された。以来、飛翔体に関連した宇宙工学の研究開発並びに宇宙理学研究は、東京大学宇宙航空研究所を中心とし、国公私立大学等多くの機関の研究者の協力の下に、自由な発想に基づく一貫した研究プロジェクトとして進められ、多大の成果を収めた。

この結果、我が国の宇宙理学・宇宙工学研究は発展を続け、世界的な趨勢を反映し、その規模が拡大してくるとともに、大型国際協力計画への参加など国際的な連携体制への配慮も必要となってきた。更に実用分野にわたる国の宇宙開発計画の拡大に対して、その自立的発展に寄与するためにも、特に宇宙工学分野における幅広い研究の拡充が必要となってきていた。

この情勢を踏まえ、東京大学宇宙航空研究所においては、将来の体制のあり方について検討が重ねられてきた。また文部省学術審議会においても、文部大臣の諮問に応じて審議の結果、1975年10月に至り「宇宙科学研究の推進」について答申が行われた。その中で今後の我が国の宇宙科学研究のあり方と、これを推進するための中核となる研究所（いわゆる「中核研究所」）の必要性が強調された。

宇宙航空研究所では所外の関連研究者の意見も徴しつつさらに討議を進め、宇宙理学・宇宙工学に係わる部分が発展的に「中核研究所」に移行するのが適当であるとの結論に達し、これを受けて東京大学評議会においても同様の趣旨の結論が得られた。これに従い、1980年4月に東京大学に「宇宙科学のための中核研究所」設立準備調査委員会が発足し、中核研究所のあるべき姿について審議を重ね、「中核研究所」を緊急に発足させることの必要性とその目的・組織・規模・事業計画等の基本的事項が取りまとめられた。これに基づき1981年度予算に「研究所の創設」について概算要求を行い、第94回国会において「宇宙科学研究所」の設置に関する予算並びに国立学校設置法の改正がなされ、1981年4月14日付をもって東京大学宇宙航空研究所を発展的に改組し、宇宙科学研究本部の前身である宇宙科学研究所が発足した。

なお、1989年4月1日に、研究所の位置が東京都から神奈川県に変更された。

宇宙科学研究所は、神奈川県相模原市における施設設備のほか、研究施設として1962年2月に鹿児島宇宙空間観測所（鹿児島県内之浦町）、同年10月に能代ロケット実験場（秋田県能代市）、1970年11月に三陸大気球観測所（岩手県三陸町）、1993年4月に宇宙科学企画情報解析センター（相模原市）〔1979年4月に宇宙科学資料解析センターとして開設の廃止・転換〕、1984年10月に臼田宇宙空間観測所（長野県臼田町）、1987年5月に宇宙基地利用研究センター（相模原市）及び1995年4月に次世代探査機研究センター（相模原市）を開設し、実験・観測・研究などを行った。

JAXA宇宙科学研究本部となった2003年10月からは、文部科学大臣から提示される中期目標に従い、「研究者の自主性を尊重した独創性の高い宇宙科学研究」と「衛星等の飛翔体を用いた宇宙科学プロジェクトの推進」をともに重点的に推進している。前者は、研究者が個人あるいはグループを作って行う研究で、萌芽的な性格のものであり、後者は、科学衛星プロジェクトに代表される研究で、衛星の開発からデータ解析、成果の公表までの一連の作業を含む活動である。これらは、旧宇宙科学研究所で行われてきた研究活動を大筋で踏襲したものとなっている。

2. 設置目的

宇宙科学研究本部の設置目的は、その前身である宇宙科学研究所の大学共同利用システムを継承し、全国の大学や研究機関に所属する関連研究者との有機的かつ多様な形での共同活動を行う研究体制を組織して、科学衛星・探査機による宇宙科学ミッション、大気球・観測ロケット、小型飛翔体等による小規模ミッション、宇宙環境を利用した科学研究、将来の宇宙科学ミッションのための観測技術等の基礎研究を推進することである。研究に従事する全国の国公立大学その他の研究機関の研究者に宇宙科学研究本部の実験施設・設備を利用させることを行っている。また、国公立大学の研究者や外国人研究者を客員の教授、助教授等として迎えている。さらに、大学院教育としては国公立大学の要請に応じ、当該大学の大学院における教育に参加・協力することになっており、このことを通じて、この分野の後継者の育成にあたっている。

3. 宇宙開発体制

宇宙開発に関する長期的な計画は、独立行政法人宇宙航空研究開発機構法第19条に基づき、宇宙開発委員会の議決を経て主務大臣により定められる。

さらに宇宙航空研究開発機構は、主務大臣から長期的な計画を基とした中期目標の指示を受け、当該中期目標を達成するための中期計画を作成し、主務大臣の認可を受ける。

2003年10月2日に認可された中期計画のうち、宇宙科学研究の個別事項の概要は次のとおりである。

(1) 運用中の飛翔体を用いた宇宙科学研究プロジェクトの推進

- ① 地球磁気圏尾部の構造とダイナミクスを解明することを目指して、科学衛星「ジオテイル」を運用し、地球近傍の磁気圏尾部のプラズマの直接計測などを行い、海外の関連観測と連携して、国際共同観測の責務を果たす。
- ② 地球磁気圏におけるプラズマ現象の解明などを目指して、科学衛星「あけぼの」を運用し、極域磁気圏の粒子・磁場等の直接観測を行う。
- ③ 活動銀河核のジェット現象の解明などを目指して、科学衛星「はるか」を運用し、超高空間分解能電波観測を行う。
- ④ 火星近傍からの火星上層大気の観測などを目的として、宇宙探査機「のぞみ」の運用を行う。(2003年12月9日、燃料供給系及び通信系・熱制御系の不具合により、火星周回軌道への投入を断念し、ミッションは中止)
- ⑤ サンプルリターンに代表される惑星探査技術の実証を目指して、工学実験探査機「はやぶさ」を運用し、飛翔データを取得する。

(2) 開発中・開発承認済の宇宙科学研究プロジェクトの推進

- ① 銀河の形成と進化の解明などを目指して、従来に比し数倍高い感度と解像度でサーベイ観測が可能な宇宙赤外線望遠鏡を搭載する科学衛星ASTRO-Fの飛翔モデル開発を行う。打上げ後は、全天の赤外線源探査観測を進め、その結果を赤外線源カタログとして公開する。
- ② 月の起源の解明を目指して、ペネトレータと呼ばれる新しい手段を使って月面に地震計、熱流量計などの科学観測機器を設置し、月の内部構造を探る宇宙探査機LUNAR-Aの飛翔モデルの開発と観測を行う。
- ③ 月の起源と進化の解明を目指して、表面の元素／組成、地形や表面付近の地下構造、磁気異常、重力場などの月全域にわたる観測と将来の月探査基盤技術の実証を実施する月探査機SELENEの飛翔モデルを開発し、観測運用を行う。
- ④ 動的な視点から宇宙の構造形成やブラックホール周辺現象の理解を目指して、世界最高（「あすか」衛星の10倍以上）の超高分解能X線分光と高感度広帯域X線分光を実現する科学衛星ASTRO-E IIの飛翔モデルの開発

を行う。打上げ後は、国際公募観測等による観測を進める。

- ⑤ 太陽コロナとその活動現象の起源の解明を目指して、世界で初めて、太陽磁場の最小構成要素である磁気チューブを空間的に分解可能な可視光磁場望遠鏡、「ようこう」衛星に比べて3倍の空間分解能を有するX線望遠鏡などを搭載する科学衛星SOLAR-Bの飛翔モデルの開発を行う。打上げ後は、国際協力パートナーとともに観測を進める。
- ⑥ 惑星大気が惑星の自転の数十倍で回転する不思議な現象など金星の大気現象の全体像を解明することを目的として、金星大気を3次元的に把握するための多波長にわたる観測装置と金星探査に必要な探査機のシステム開発を行う。
- ⑦ 水星の起源と進化、磁場の成因、磁気圏にわたる全貌解明を目指して、ベッピコロombo (Bepi-Colombo) 計画の水星磁気圏周回衛星 (MMO) の開発とベッピコロombo探査機に搭載される観測装置の開発を行う。

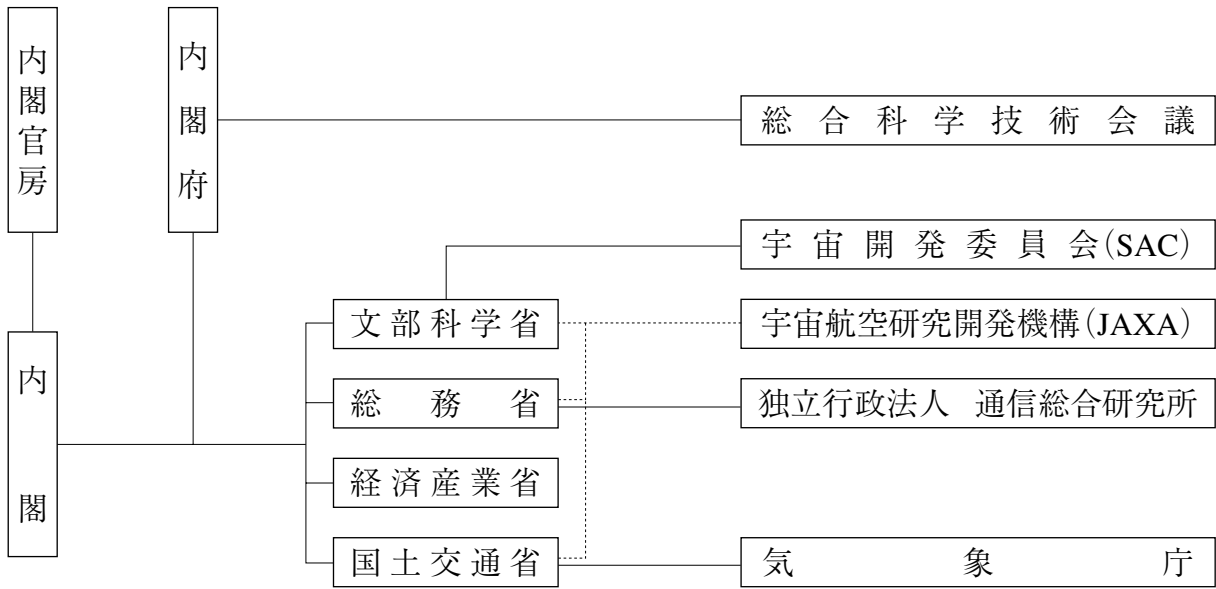


表1 日本の宇宙開発関係機関

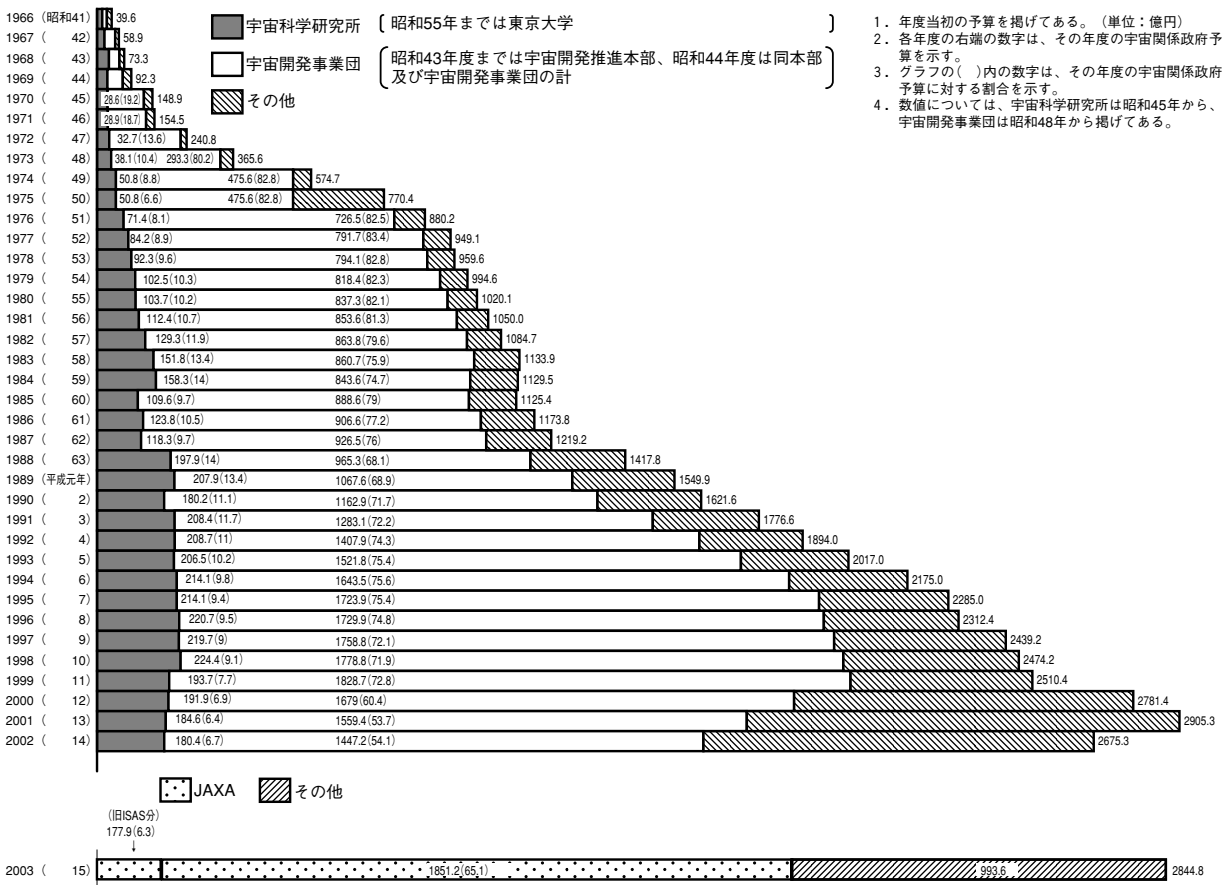


表2 宇宙関係政府予算

4. 組織及び運営

a. 組織

宇宙科学研究本部は11の研究系と大学院教育交流センターなど4つのセンター、科学推進部、対外協力室、品質保証室、システム運用部、技術開発部、月探査技術開発室、14のプロジェクトチーム・プロジェクト室で構成されている。また、本部長のもとに企画連携総括、研究総主幹及び宇宙科学プログラムディレクタが置かれている。

機構には宇宙科学関連業務に関して理事長に助言し、宇宙科学研究本部長の候補者を選考・推薦する宇宙科学評議会が置かれている。また、宇宙科学研究本部には大学共同利用システムの円滑な運営を行うため、宇宙科学運営協議会が置かれている。

b. 運営

旧宇宙科学研究所の大学共同利用システムを継承し、外部の学識者から事業計画その他の宇宙科学研究に関する重要事項等についての助言を得るための制度として、宇宙科学評議会と宇宙科学運営協議会が設置されている。(それぞれの構成員は以下のとおり)

このほか、本部内だけで構成する各種の本部内委員会*や、全国の多数の関係研究者を構成員として共同研究計画等について審議する各種の研究委員会*が設けられている。

* 8 頁参照

評議員名簿 (50音順・2004年3月31日現在)

相磯 秀夫	京工科大学長	(副会長)佐藤 文隆	甲南大学理工学部教授
(会長)秋葉鎌二郎	無人宇宙実験システム研究開発機構技術顧問	高畑 尚之	総合研究大学院大学副学長
		高山 和喜	東北大学先進医工学研究機構教授
石井 紫郎	日本学術振興会学術システム研究センター副所長	中野不二男	ノンフィクション作家
		原島 文雄	東京電機大学工学部教授
奥田 治之	宇宙科学研究本部名誉教授	日高 敏隆	総合地球環境学研究所長
海部 宣男	国立天文台長	堀田 凱樹	情報・システム研究機構理事長
梶山 千里	九州大学長	本田 和子	お茶の水女子大学長
岸 輝雄	物質・材料研究機構理事長	松野 太郎	海洋科学技術センター地球フロンティア研究システム長
小出 五郎	NHK解説委員		
郷 通子	長浜バイオ大学バイオサイエンス学部長	山下 廣順	名古屋大学副総長
佐々木 毅	東京大学長		

運営協議会名簿 (50音順・2004年3月31日現在)

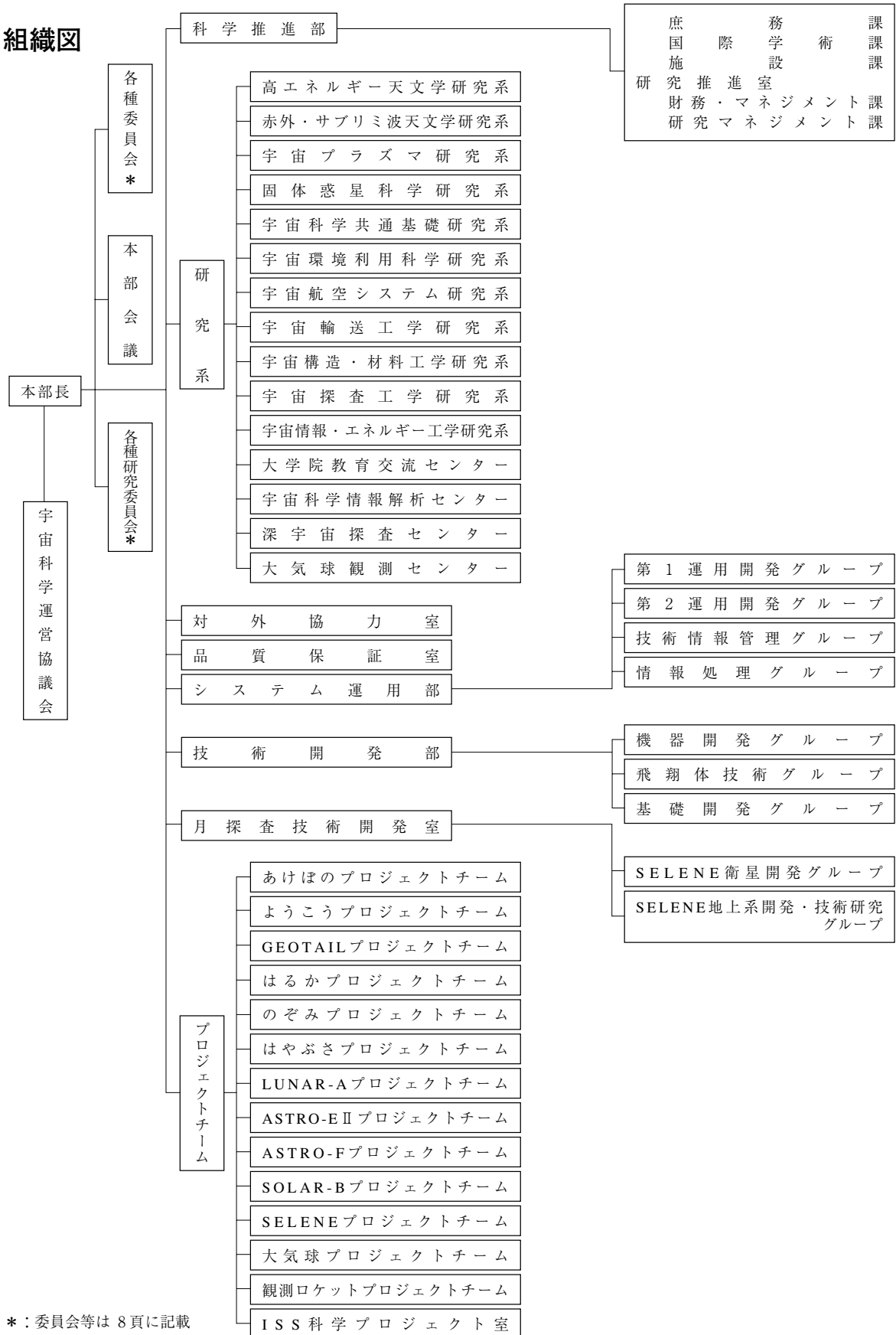
(本部外)

荒川 義博 東京大学大学院工学系研究科教授
 佐藤 勝彦 東京大学大学院理学系研究科附属
 ビックバン宇宙国際研究センター長
 住 明正 東京大学気候システム研究センター
 教授
 棚次 亘弘 室蘭工業大学教授
 (副会長)土屋 和雄 京都大学大学院工学研究科教授
 中澤 清 東京工業大学大学院理工学研究科
 理学系長
 新岡 嵩 秋田県立大学地域共同研究センター
 教授
 判澤 正久 東海大学工学部教授
 鳳 紘一郎 東京大学大学院新領域創成科学研究
 科元教授
 松本 紘 京大大学生存圏研究所長
 観山 正見 国立天文台副台長

(本部内)

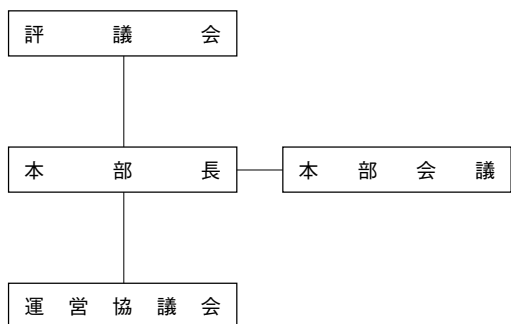
(会 長)井上 一 研究総主幹
 上杉 邦憲 宇宙航行システム研究系研究主幹
 小野田淳次郎 企画連携総括
 栗林 一彦 宇宙環境利用科学研究系研究主幹
 小杉 健郎 宇宙科学共通基礎研究系研究主幹
 中谷 一郎 宇宙科学プログラムディレクタ
 二宮 敬虔 宇宙探査工学研究系研究主幹
 松本 敏雄 赤外・サブミリ波天文学研究系研
 究主幹
 水谷 仁 固体惑星科学研究系研究主幹
 向井 利典 宇宙プラズマ研究系研究主幹

組織図



*：委員会等は 8 頁に記載

各種委員会等



企画調整	企画調整会議	
	企画連携会議	
研究委員会	宇宙理学委員会	
	宇宙工学委員会	
	科学衛星研究専門委員会	
	大気球専門委員会	
	宇宙環境利用科学委員会	
	共同研究委員会	
	安全審査会	
日米科学技術協力事業「宇宙」研究計画委員会		
宇宙科学企画情報解析センター運営委員会		
本部内委員会	常置委員会	
	評価対応委員会	
	情報公開委員会	
	本部内規則委員会	
	広報	ニュース編集会
		H P 委員会
	図書・出版委員会	
	大学院教育協力委員会	
	知的財産委員会	
	健康・安全管理委員会	
	計算機運営委員会	
	放射線委員会	
	受託研究等外部資金受入れ審査会	
	国際協力委員会	
	技術職員研修委員会	
	セキュリティ委員会	
	施設・設備整備委員会	
	プログラム会議	
	研究計画会議	
	技術連絡委員会	
	開発・研究職員委員会	
	招聘職員等人事委員会	
	信頼性品質委員会	
産学官連携委員会		
運営会議		

c. 職員数 (2004年3月31日現在)

職種別

区 分	本部長	教 育 職			一般職	合計
		教授	助教授	助手		
職 員 数	1	41 *15(3)	43 *14(2)	57	129	271 *29(5)

*は客員で、()内は、外国人を外数で示す。

部等別

区 分	本部長	教 育 職			一般職	合計
		教授	助教授	助手		
本 部 長	1					1
研 究 系		39 *12(3)	39 *12(2)	53		131 *24(5)
セ ン タ ー		2 *2	4 *2	4		10 *4
対 外 協 力 室		*1				*1
科 学 推 進 部					52	52
シ ス テ ム 運 用 部					25	25
技 術 開 発 部					30	30
月 探 査 技 術 開 発 室					13	13
ISS科学プロジェクト室					9	9
	1	41 *15(3)	43 *14(2)	57	129	271 *29(5)

*は客員で、()内は、外国人を外数で示す。

d. おもな職員 (2004年3月31日現在)

宇宙科学研究本部長	鶴田浩一郎	第2運用開発グループ長	並木 道義
企画連携総括(兼)	小野田淳次郎	技術情報管理グループ長	前山 勝則
研究総主幹(兼)	井上 一	情報処理グループ長	内田 右武
宇宙科学プログラムディレクタ(兼)	中谷 一郎	技術開発部長(兼)	安部 隆士
科学推進部長	若林 茂樹	機器開発グループ長	中部 博雄
庶務課長	山本日出夫	飛翔体技術グループ長	平山 昇司
国際学術課長	市川 清治	基礎開発グループ長	矢守 章
施設課長	安孫子俊一	月探査技術開発室長	滝澤 悦貞
研究推進室長	西田 均	SELENE衛星開発グループ長	高橋 道夫
財務・マネジメント課長	山腰 俊昭	SELENE地上系開発・技術研究グループ長	
研究マネジメント課長	高橋 静次		神谷 芳和
対外協力室長(兼)	的川 泰宣	あけぼのプロジェクトチームプロジェクトマネージャ(兼)	向井 利典
客員教授	(招)山根 一眞	ようこうプロジェクトチームプロジェクトマネージャ(兼)	小杉 健郎
品質保証室長(兼)	川口淳一郎	GEOTAILプロジェクトチームプロジェクトマネージャ	
システム運用部長	河端 征彦		
第1運用開発グループ長	前田 行雄		

ジャ (兼) 向井 利典
 はるかプロジェクトチームプロジェクトマネー
 ジャ (兼) 平林 久
 のぞみプロジェクトチームプロジェクトマネー
 ジャ (兼) 早川 基
 はやぶさプロジェクトチームプロジェクトマネー
 ジャ (兼) 川口淳一郎
 LUNAR-Aプロジェクトチームプロジェクトマネ
 ージャ (兼) 中島 俊
 ASTRO-EIIプロジェクトチームプロジェクトマネ
 ージャ (兼) 井上 一
 ASTRO-Fプロジェクトチームプロジェクトマネ
 ージャ (兼) 村上 浩
 SOLAR-Bプロジェクトチームプロジェクトマネ
 ージャ (兼) 小杉 健郎
 SELENE プロジェクトチームプロジェクトマネ
 ージャ (兼) 滝澤 悦貞
 大気球プロジェクトチームプロジェクトマネー
 ジャ (兼) 山上 隆正
 観測ロケットプロジェクトチームプロジェクトマ
 ネージャ (兼) 稲谷 芳文
 ISS科学プロジェクト室長 (兼) 依田 眞一

高エネルギー天文学研究系

研究主幹 (兼) 井上 一
 教授 井上 一
 助教 國枝 秀世
 高橋 忠幸
 満田 和久
 助教 堂谷 忠晴
 山崎 典子
 客員教授 (招) 村上 敏夫
 客員非常勤 (招) 林田 清

赤外・サブミリ波天文学研究系

研究主幹 (兼) 松本 敏雄
 教授 中川 貴雄
 松本 敏雄
 村上 浩
 助教 片坐 宏一
 紀伊 恒男
 松原 英雄
 客員教授 (招) 芝井 広
 客員助教授 (招) 藤沢 健太

宇宙プラズマ研究系

研究主幹 (兼) 向井 利典
 教授 小山孝一郎
 前澤 洸
 向井 利典
 助教 阿部 琢美
 齋藤 義文
 中村 良治
 早川 基
 客員教授 (招) 松本 紘
 客員助教授 (招) 平原 聖文

固体惑星科学研究系

研究主幹 (兼) 水谷 仁
 教授 加藤 學
 藤村 彰夫
 藤原 顯
 水谷 仁
 助教 岩田隆浩[筑]
 笠羽 康正
 田中 智
 客員教授 (招) 中村 栄三
 (招) 山本 哲生
 客員助教授 (招) 阿部 豊
 (招) 井田 茂

宇宙科学共通基礎研究系

研究主幹 (兼) 小杉 健郎
 教授 小杉 健郎
 中村 正人
 助教 今村 剛
 北村 良実
 坂尾 太郎
 客員教授 (招) 福西 浩
 (招) 渡邊 鉄哉
 (招) H Surendra S. Shinha
 (招) Ram Prakash Verma
 客員助教授 (招) 村上 英記
 (招) 奈良岡 浩
 (招) Park, Yong-Sun
 (招) Paul Prakash

宇宙環境利用科学研究系

研究主幹 (兼) 栗林 一彦

教授	石岡憲昭[筑]	教授	小松 敬治
	栗林 一彦		名取 通弘
	山下 雅道		八田 博志
	依田眞一[筑]	助教授	佐藤 英一
助教授	石川毅彦[筑]		樋口 健
	稲富 裕光		峯杉 賢治
	黒谷 明美		横田 力男
	桑原 邦郎	客員教授	(招) 柴田 浩司
客員教授	(招) 跡見 順子	客員助教授	(招) 三原 毅
客員助教授	(招) 奥野 誠		
宇宙航行システム研究系		宇宙探査工学研究系	
研究主幹(兼)	上杉 邦憲	研究主幹(兼)	二宮 敬虔
教授	稲谷 芳文	教授	田島 道夫
	上杉 邦憲		中谷 一郎
	川口淳一郎	助教授	二宮 敬虔
	中島 俊		久保田 孝
助教授	石井 信明		曾根 理嗣
	小川 博之		橋本 樹明
	山川 宏		廣瀬 和之
	(併) 澤井秀次郎	客員教授	(招) 水野 貴秀
客員教授	(招) 澤田 恵介	客員助教授	(招) 江刺 正喜
	(招) Drago Matko		(招) 安藤 慎治
客員教授	(招) 中須賀真一		
宇宙輸送工学研究系		宇宙情報・エネルギー工学研究系	
研究主幹(兼)	高野 雅弘	研究主幹(兼)	中谷 一郎
教授	安部 隆士	教授	齋藤 宏文
	高野 雅弘		佐々木 進
	藤井 孝藏		高野 忠
	(併) 棚次 亘弘	助教授	平林 久
	(併) 森田 泰弘		山本 善一
助教授	國中 均		加藤 隆二
	坪井 伸幸		田中 孝治
	船木 一幸		山田 隆弘
	堀 恵一		吉川 真
	(併) 佐藤 哲也	大学院教育交流センター	
	(併) 嶋田 徹	センター長(兼)	安部 隆士
客員教授	(招) 長島 利夫	宇宙科学情報解析センター	
客員助教授	(招) 李家 賢一	センター長(兼)	長瀬 文昭
		教授	長瀬 文昭
		助教授	篠原 育
宇宙構造・材料工学研究系			高木 亮治
研究主幹(兼)	名取 通弘		橋本 正之
教授	小野田淳次郎		

客員教授	(招) 星野 真弘	大気球観測センター	
客員助教授	(招) 松方 純	センター長 (兼)	山上 隆正
		教授	山上 隆正
深宇宙探査センター		助教授	齋藤 芳隆
センター長 (兼)	川口淳一郎		
客員教授	(招) 櫻井 貴康		(招) 招聘職員
客員助教授	(招) 池田 博一		(併) 併 任
			[筑] 筑波在勤

e. 予 算

2003年度予算額 (宇宙科学研究所 当初予算相当分)	22,070,154	千円
経常経費相当分	3,887,045	千円
科学衛星及びロケット観測経費相当分	17,477,691	千円
大気球観測経費相当分	120,661	千円
国立大学相当分	584,757	千円
<hr/>		
(科学研究費補助金)	386,380	千円)
(その他 (日米科学技術協力事業費等))	17,861	千円)

5. 宇宙科学研究本部の位置・敷地・建物**宇宙科学研究本部**

位 置

神奈川県相模原市由野台3丁目1番1号
北緯35° 34' 04" 東経139° 22' 36"

敷地・建物

敷地：1,011,678m²
建物：建面積 37,221m²
延面積 77,702m²

① 相模原キャンパス

位 置

神奈川県相模原市由野台3丁目1番1号
北緯35° 34' 04" 東経139° 22' 36"

敷地・建物

敷地：73,001m²
建物：建面積 17,224m²
延面積 52,081m²

② 内之浦宇宙空間観測所 (平成15年10月1日以降は、宇宙基幹システム本部 所属)

位 置

鹿児島県肝属郡内之浦町南方1791番地13
北緯31° 15' 00" 東経131° 04' 45"

敷地・建物

敷地：704,395m²
建物：建面積 13,158m²
延面積 16,974m²

③ 能代多目的実験場（平成15年10月1日以降は、総合技術研究本部 所属）

位 置

秋田県能代市浅内字下西山1

北緯40° 09′ 52″ 東経139° 59′ 36″

敷地・建物

敷地：61,941m²建物：建面積 3,554m²延面積 3,661m²

④ 三陸大気球観測所

位 置

岩手県大船渡市三陸町吉浜

北緯39° 09′ 30″ 東経141° 49′ 30″

敷地・建物

敷地：71,989m²建物：建面積 1,031m²延面積 1,342m²

⑤ 臼田宇宙空間観測所（平成15年10月1日以降は、宇宙基幹システム本部 所属）

位 置

長野県南佐久郡臼田町大字上小田切字大曲1831番地6

北緯36° 07′ 44″ 東経138° 21′ 54″

敷地・建物

敷地：98,302m²建物：建面積 1,794m²延面積 2,976m²

⑥ あきる野施設

位 置

東京都あきる野市菅生字大沢1918番地1

北緯35° 45′ 14″ 東経139° 16′ 24″

敷地・建物

敷地：2,050m²建物：建面積 460m²延面積 668m²

相模原キャンパス

